

御船中のNIE実践

～読解力と社会への関心を高める新聞を活用した取組～

御船町立御船中学校

新聞を活用して生徒の読解力や社会への関心、表現力を高めたいと取り組みました。
“できるところから”の実践です。ご覧いただき、ご助言を賜れば幸いです。

1 新聞を読もう



【新聞台の設置】

取組を始める前は、新聞を読む習慣がない生徒も少なくありませんでした。

そこで、少しでも新聞を身近に感じてもらうために、ものづくり部の生徒が新聞台を作成し、校舎各階に設置しました。

生徒のすぐ目につくところに新聞があることで、休み時間等に生徒が新聞を読む姿増えてきました。



2 社会に目を向け自分の意見をもとう

【1分間スピーチ】

第3学年では、日直が帰りの会で「最近、気になった記事」という題で、1分間スピーチを行っています。

生徒が新聞を読む機会や社会に対する興味・関心を一層高めています。

【興味をもったことを新聞で調べる】

御船中学校は外部講師を招いた講演会を年複数回開催しています。

令和3年度は、藤木正幸 御船町長、川島隆太 東北大学加齢医学研究所長、中尾有沙 パラアスリートに。令和4年度は、浦田理恵 ロンドンパラリンピック金メダリスト、内村直尚 久留米大学長、市川駿英 三井不動産株式会社常任相談役などにご協力いただきました。講話の内容に関連する記事に注目する生徒も増えていきます。



3 読解力を高めよう

【新聞タイム】

毎週火曜日と木曜日の朝活動の時間に、新聞社が作成している新聞ワークシートを全校生徒に配付して読解力の向上をねらいとした取組を行っています。

ワークシートには、新聞記事の内容について問われているものや、新聞記事を読んで考えたことを書くものなど、多様な問題が設定されています。

生徒は、自分で考えたり、友だちと話し合ったりして、解決に取り組む様子が見られました。

解答・解説用紙を学級担任に配付し、解答するためのポイント等も示しています。

生徒は、学級担任の解説を聞いてポイントを確認し、丸付けや朱書き訂正をしています。

この取組を通して、文章を読んで内容を理解する力、記載された内容について自分の考えをもつ力、考えたことを表現する力を育成します。



4 学びや頑張りを発信しよう

【熊本日日新聞への寄稿】

学校生活の様々な行事や体験活動を経験して、生徒は多くのことを学び、感じ、自分の考えを広げたり深めたりしています。それらを発信する力を育む目的で、若者コーナーに意見や感想を寄稿しています。

新聞記事から中学生の思いを知った地域の方から、温かい励ましや賞賛の言葉をいただき、生徒が自信をもち、見守り声をかけてくださる地域の方への感謝の気持ちを高めています。

【放送での記事紹介】

昼の放送で、新聞に掲載いただいた生徒作文を紹介し、一人の学びや頑張りを全校生徒で共有しています。

胸が痛くなる
若者らの手紙
藤川佑真 中学3年生
(御船町)

僕たちは、修学旅行で福岡県にある大刀洗平和記念館を見学しました。かつて東洋一の規模といわれた飛行場があり、陸軍の飛行学校の本校があった場所に記念館が建っています。

記念館の中には、貴重な当時の戦闘機が保存されており、戦争でなくなった方の写真や家族にあてた手紙などが展示してありました。写真や手紙の主のほとんどが10代や20代の若い人たちで、僕に

年齢が近い人もたくさんいました。それらの資料を見てみると、胸が痛くなりしめつけられるような気持ちになりました。アメリカ軍の爆撃を受けた時の様子を再現したビデオを見ると、当時の生活の様子がよく分かり、どんな気持ちで暮らしていたんだろうかと考えもしました。大刀洗の軍需工場には、500人の旧制御船中の生徒が終戦まで親元を離れて働いていたと知り、僕たちとの縁に驚きました。国のため、ふるさとのため、家族のために一生懸命だった人々のおかげで今

があるんだと、感謝の気持ちも大きくなりました。当時の様子を知り、あらためて、戦争を絶対にしてはいけないと思いました。

5 新聞の果たす役割を考えよう（新聞づくりの思いを知ろう）

【授業のゲストティーチャー】

県教育委員会編集の道徳教材「つなぐ」に、「地元紙の記者として」という題材があります。これは、熊本地震が発生した当時、自らも被災者でありながら取材に奔走し、新聞発行を継続し、これからの為に資料を編纂しようとした地元紙の記者等の方々の思いや葛藤が記されたものです。

2年生の道徳の学習に、当時、編集の取りま



**仕事の使命感
記者から学ぶ**
茂野ゆうな 中学2年
(御船町)

道徳の時間に、熊本地震を題材にした副読本「つなぐ」に掲載されていた新聞記者の方の話を聞きました。熊本地震の直後に新聞記事を届けようと苦労された話でした。

若者コーナー

つばいで、私だったら、とても新聞を作ろうという気持ちにはなれなかつたと思います。しかし、記者の方は、被害の正しい情報を伝えること、これまで先輩

とめをされていた山口常務取締役をお招きして、当時の様子や思いを語っていただきました。

取材活動のご苦労や、現場の意見の食い違い、地元紙の果たすべき役割や新聞に携わる方々の使命感など、生々しい状況の話を生徒たちは真剣に聞きました。

働く意味や新聞の果たす役割について考えを深める貴重な学習になりました。

「大変なのは自分たちだけじゃない。新聞を届けたい被災された方が元気を取り戻してほしい」という気持ちで配達を続けていたんじゃないかと、考えました。

私は大人になって仕事を始めたから、今回の話を忘れずに、誰かに勇気を与えられるように使命感をもって働きたいと思いました。

「大変なのは自分たちだけじゃない。新聞を届けたい被災された方が元気を取り戻してほしい」という気持ちで配達を続けていたんじゃないかと、考えました。

私は大人になって仕事を始めたから、今回の話を忘れずに、誰かに勇気を与えられるように使命感をもって働きたいと思いました。

【聴き取り調査・劇発表】

働くことの意味や新聞の果たす役割、防災・減災に興味をもった生徒たちは、再度、山口常務取締役や町内の方々に聴き取り調査をおこない、その学びと感じたことを劇化して発表することにしました。



生徒は、聴き取った内容をもとにシナリオを作成しました。練習では、感情を込めた動作や言葉で、学んだことや感じ取ったことを伝えようと、互いに助言をしていました。

6 新聞をつくろう

【新聞社見学】

各クラスの代表者は、熊本日日新聞本社を訪問し、新聞博物館を見学したり、記者の方から話を聞いたりしました。

生徒は、新聞博物館の展示物を見学し、新聞に関する歴史や豆知識、どのようにして新聞が作られるのかを学びました。新聞が人々に親しまれてきたことや、新聞がもつメディアとしての役割を知りました。



【新聞作り方講座】



全校生徒は、調べたことや意見を発信するスキルを身に付けることを目的に、新聞の作り方について学習を熊本日日新聞社に講師のご協力をいただき行いました。

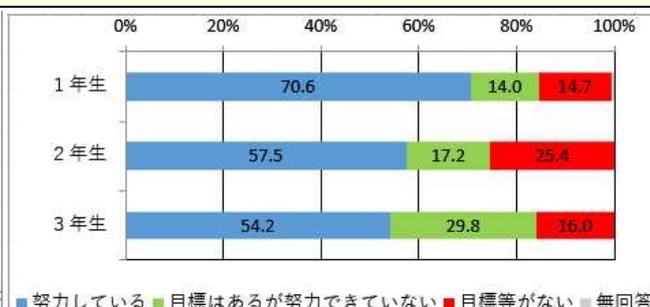
第1回講座は、新聞の歴史や新聞の要素（見出し、写真、リード文など）、インタビューの仕方についてを学習しました。第2回講座は、見出しの付け方や構成・レイアウトの工夫について学習しました。

演習形式の講座で、生徒は新聞の作り方を体験しながら学ぶことができました。

【壁新聞コンクール】

各学年が総合的な学習の時間『御船輝き学習』で学んだことを壁新聞にまとめることにしました。読者の興味をひき、わかりやすく工夫してまとめることめざし、コンクール形式で取り組みました。

どの学級も、新聞記事を充実させることを目指して工夫しながらインタビュー活動や調べ学習に取り組みました。取材の後、どうしたらわかりやすく伝えることができるか、生徒同士で意見を交換しながら、壁新聞の作成にとりかかりました。見出しや写真、図やグラフも効果的に使いながら制作し、表現力が高まっている様子がありました。



「夢や目標の実現に向けて努力していますか」の質問への回答状況

(左：令和2年6月、右：令和4年6月)

全国学力調査からも読解力の向上が顕著です。また、社会への関心を高めて夢や目標をもつ生徒が増えていることもNIEの取組の成果と考えているところです。